

窓の内と外

小川未明

青空文庫

しろくろ 白と黒の、ぶちのかわいらしい子ねこが、洋服屋の飾り窓のうちに、いつもひなたぼつこをしていました。そのころ、政一は、まだ学校へ上がりたてであつた。その店の前を通るたびに、おもちゃのねこがおいてあると思つていました。ところが、ある日、そのねこが起き上がつて、脊のびをしたので、

「おや、生きてゐるのだな。」と、びつくりしました。

ねこを好きな政一は、それから、この洋服屋の前を通ると、かならず店のうちをのぞくようになりましたが、太陽の当たらないときは、ねこの姿を飾り窓では見ませんでした。

月日がたつて、いつしか政一は、上級生となりました。彼は、また釣りが大好きなので、祭日や、日曜日などには、よく釣りに出かけました。だれでも、子供の時は、魚釣りが好きなものですが、政一ときては、日に、二、三回もいくようなこともめずらしくなかつたのです。それは、川がそう遠いところでなかつたからでありましょう。片手にブリキかんをぶらさげて、片手にはさおを持ち、いつも帽子を目深にかぶつて、よくこの洋服屋の前を通つたのでありました。

そのころは、とつくに、ねこがいなかったから、彼は、ねこのことなど忘れてしましました。ただガラス窓にうつる、彼の姿が、学校へ上がりたてのころから見れば、おどろくほど大きくなっていました。思い出したように、彼はまぶしい空を見上げたが、釣りのことよりほかには、なにも考えていませんでした。

このとき、店のうちで、眼鏡をかけて仕事をしていたおじいさんは、じつと少年の姿を見送っていました。

「あのお子さんも、大きくなったものだ。しかし今日は、風向きがおもしろくないから、釣りはどうだかな。」と、おじいさんはひとり言をしたのでした。

政一のお母さんは、よくこの店へきて、政一の洋服の修繕をお頼みになりました。ちやうど、その日の晩方のことです。いつものように、お母さんは、洋服屋へこられて、こんどは、政一が、新学期から着るための新しい服を、お頼みなさったのでした。「いままでのは、もう小さくなつて着られなくなりましたから、新しいのをこしらえてやろうと思います。」と、お母さんは、おっしゃいました。

これを聞くと、おじいさんは、にこにこしながら、「きよう、坊ちゃんがさおを持つて、前をお通りになりましたが、釣れましたか。しかし、

よく私の直してあげました服を、こんなになるまで我慢して着てくださいました。感心なことです。何分戦後で、品物がないのですから。」と、おじいさんが、いいました。

「このまえ、こんどこれが切れたら、新しくなさいと、念を入れて修繕してください。たおしりのところが、こんなに破れましたし、それに、急に体が大きくなりましたので、新しくこしらえてやろうと思います。」と、お母さんも笑って、お答えになりました。

おじいさんは、鼻先から、眼鏡をすべり落ちそうにして、うなずきながら、

「坊ちゃんが、あんなに大きくおなりですもの、自分は年をとったはずだと、つくづく思いましたよ。」

おじいさんは、さらに、話をつづけました。

「私も、子供のときは、なにより釣りが大好きでした。それですから、いまでも、釣りざおを持っていく人を見ると、しぜんに癖で、空を見ます。ああ、今日はいじょうぶだ。今日は、風がおもしろくないと、つい、自分のことのように考えるのです。仕事をするようになって、もう何十年も川へいきません。けれど、こうしてすわっていても、昔を考えると、楽しかった日が、目に浮かんできます。」と、おじいさんは、政一のお母さんに向かつて、話しました。

この日、政一は、おじいさんのいったように、わずかに小さなふなを二匹と、えびを三匹釣ったばかりでした。夕飯のとき、お母さんが、おじいさんの、今日の話を聞きかせなされると、

「たまには、おじいさんも、釣りにいけばいいのに。」と、考えて、政一は、こういいました。

「それが、つぎつぎに、お仕事があつていけないのだそうです。おまえの、いま着ている服も、どれほどおじいさんのお世話になつたかしれません。おじいさんだけは、直しものでも、けつしていやな顔をせずに、かえつて、こんな時節だから、着られるだけ我慢なさいといつて、喜んでしてくださるのですよ。」と、お母さんはいわれました。

政一は、お母さんの口から、こうはじめて聞くと、おじいさんが、自分の好きな楽しみも犠牲にして、他人のためにつくしているのを知りました。そればかりでなく、政一は、自分の着ている服も、幾人かの手によつてつくられたのであつて、この世の中のことは、なに一つ、ひとりの力だけで、できるものがないことを悟つたのであります。

彼は、毎日、だまつて仕事をしている人々に、真に感謝の念がわいたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「僕の通るみち」南北書園

1947（昭和22）年2月

※表題は底本では、「窓《まど》の内《うち》と外《そと》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年12月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

窓の内と外

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>